

## 温室効果ガス削減計画

## 1 事業の概要

## (1) 事業所の名称

横浜ゴム株式会社 尾道工場

## (2) 事業所の所在地

広島県尾道市東尾道20番地

## (3) 業種

自動車タイヤ・チューブ製造

(4) 事業所位置図  
別紙のとおり

## 2 計画の期間

本計画の期間は、平成25(2013)年度を基準年度とし、令和4(2022)年度から令和12(2030)年度までの9年間とする。

## 3 計画の基本的な方向

## 1 基本的な考え方

経営方針に示された「会社に対する公正さと環境との調和を大切にする」を規範として、地球環境のために、「未来への思いやり」を体現する、トップレベルの環境貢献企業になります。

## 2 方針

1. 尾道工場はトップのリーダーシップの下、全ての活動分野で環境に配慮した施策に取り組み、世界に冠たる

環境活動を実践します。

2. 地域の皆様、お客様、従業員など企業活動に関わる方々とのコミュニケーションを深め、地域貢献・社会貢献に努めます。

3. 環境マネジメントシステムを強化し、適切な流出防止策と適切な科学物質管理により、地域に信頼される、

環境リスクゼロの工場を目指します。

4. 関連する法規制及び協定を順守し、継続的に環境改善活動に取り組みます。

5. カーボンニュートラルの実現に向けて、省エネ活動を推進します。

循環型社会の実現に向けて、資源のより少ない使用と再利用を推進します。

6. 敷地内の緑豊かな千年の杜を維持し、瀬戸内の生物多様性の保全に貢献します。

7. 環境方針を具現化するために、働く者一人ひとりへの継続的な教育と啓発を行い、工場の活動の全てが

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO <sub>2</sub> ）	
	基準年度	直近年度
	平成 25（ 2013 ）年度	令和 4（ 2022 ）年度
二酸化炭素	22,125	13,510

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO <sub>2</sub> ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO <sub>2</sub> ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス ( HFC PFC SF <sub>6</sub> NF <sub>3</sub> )		

## 5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25 ( 2013 ) 年度)		削減目標		目標年度 (令和12 (2030) 年度)	
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)		
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	22,125	38.0	8,408	13,717		
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				0		
メタン				0		
一酸化二窒素				0		
その他 温室効果ガス				0		
温室効果ガス 実排出量総計	22,125	38.0	8,408	13,717		
温室効果ガス みなし排出量		-		13,717		
目標設定の考え方	2030年に自社活動によるCO <sub>2</sub> 排出量を2013年比38%削減 (CO <sub>2</sub> 排出量を年2.24%の削減)					

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100      削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO<sub>2</sub>)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 ( ) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 ( ) 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>							
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100      原単位(c) = (a) / (b)      原単位見込(g) = (e) / (f)

## 6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	電気の使用量を年2.24%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率照明器具への更新</li> <li>・季節変動・機械停止時の電力消費適正化</li> <li>・インバーター周波数最適化</li> <li>・作業者が窓を開閉しエアコン稼働時間の削減</li> </ul>
2	燃料使用量の削減	燃料の使用量を年2.24%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸気配管、温水配管等の断熱強化</li> <li>・脱気器余剰熱量再利用化検討</li> </ul>
3	自動車燃料使用量の削減	ガソリンの使用量を年1%削減	アイドリングストップの徹底 輸送効率の向上
4	水使用量の削減	工業用水及び上水の使用量を年0.5%削減	工程排水の循環使用や再利用の促進 配管からの洩れ修理

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

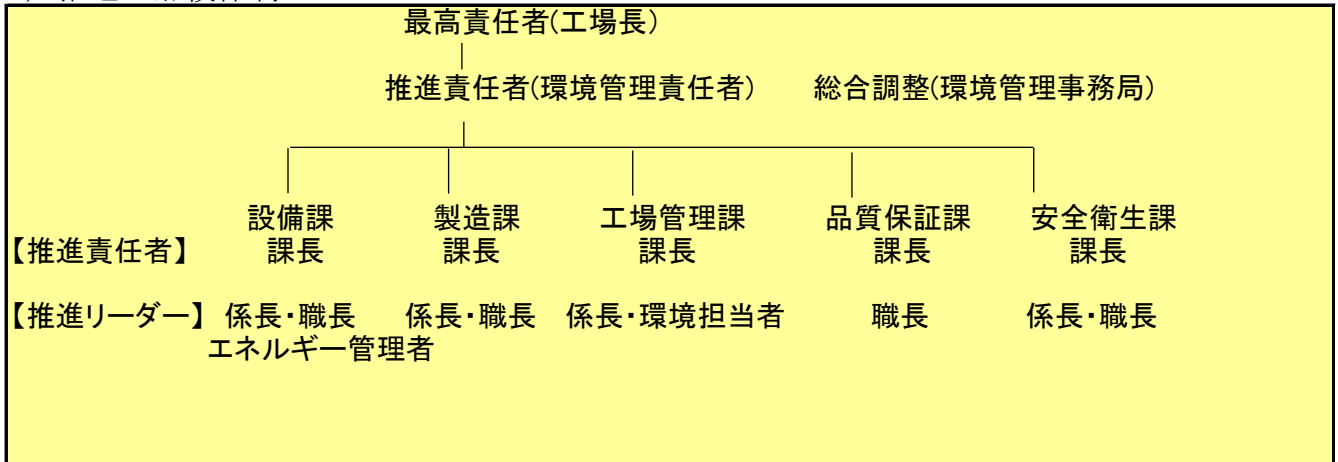
### ○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物排出量の削減	コピー用紙使用量を10%削減 製品屑の30%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両面コピー、裏面利用等</li> <li>・品質向上プロジェクト実施</li> <li>・分別収集及び資源化の徹底</li> </ul>
2	再資源化率の向上	再資源化率100%の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル品の全品回収</li> <li>・廃棄物のリサイクル製品化の実施</li> </ul>
3	有機溶剤使用量の削減	ゴム揮発油使用量を3%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポイド出口 口径管理</li> <li>・小出し缶、ジープ缶の揮発防止蓋の点検</li> </ul>

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

## 7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

### (1) 推進・点検体制



### (2) 実施状況の点検・評価

環境管理事務局を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、環境会議において定期的に評価・見直しを行い、継続的な向上を図る。

### (3) 計画書等の公表

全社的にはホームページで公開

